

株式会社朝日ラバー

環境・社会活動報告

2019年度

トップコミットメント

成長の源泉であるコア技術に一層の磨きをかけ
強い意思で将来に幸せをつないでいきます



環境への取り組み



- 環境方針 >
- 事業活動における目標と実績 >
- 事業活動における資源・エネルギーの流れ >
- 環境パフォーマンスデータ／活動状況 >
- お取引先とのコミュニケーション >

社会への取り組み



- お客様視点のものづくりの追求 >
- 働きやすい職場づくり >
- 社会とのコミュニケーション >

トップコミットメント

日頃格別なる御引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

当社の経営基本方針は、多くのお客様を始めとして広く社会全体に奉仕、貢献すること。そして、全社一丸となって取り組む真摯な行動が社会全体から存在理由を見出され、「朝日ラバーに頼めば安心して任せられる」という信頼感、そして「朝日ラバーに頼めば何とかしてくれる」という期待感に繋がるものと考えております。当社が展開する事業領域は車載・照明、医療・ライフサイエンス、その他です。どの事業も将来を支える重要な柱と位置づけております。今後も揺れ動く社会情勢の中で「歩むべき方向性」を見極める感度を高めながら、それぞれの社会活動を通じて当社の魅力を継続的に磨き続けることを努力してまいります。

第50期は「好奇心を高めて深化・進化・新化しよう。」を経営方針に掲げております。「深化」は、さらにコア技術や経営基盤に基礎力をつけるという行動です。競争力の源泉を真摯に磨き鍛えて、深く社会に貢献ができるよう取り組んでいきます。「進化」は、深化して高まった源泉を、広い視野で貢献できる優れた価値に高めていく行動です。三つ目の「新化」は、その広める進化をさらに新しいところに向けて挑戦する行動です。

「お客様のための行動」が出来る製品・サービスとは何であるか、今の基準では良い物であっても、将来に「夢や希望や感動を与える」ことができるものなのか、現場密着で答えを導き出して行動へと移すことにあります。その答えは一足飛びに高まるものではありません。あるべき姿は前を向いて走り続ける中で答えとして見つかるものです。私達はお客様に感動を与えるプロフェッショナルであり続けたい。当社は全社員がその意思を有しながら継続してやり抜こうとする人材の集まりです。自らの成長につながる新しい価値を求め続けて着実に前進するための相互啓発を実現し、一段高いものづくりを創造しながら高品質で環境にやさしい製品が提供できるよう邁進してまいります。

今後も「日々新たな」製品や価値を「楽しんで」創造していける環境を整え、独自製品・開発製品を社会にお届けできるよう全社一丸となって真摯に努力し続けてまいりますので、より一層の御支援のほどよろしく申し上げます。



渡邊 陽一郎

環境基本方針

当社は環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、「環境にやさしいものづくり」をスローガンとして、地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動します。

環境・品質方針

- 1 事業活動にかかわるすべての法令・法規・条例やお客様要求事項を遵守する。
 - (1) 適用する法令などを整備し、適宜改廃し、遵守評価を確実に実施する。
 - (2) 法令などの逸脱“ゼロ”に向けた活動を全部門で実行する。

- 2 事業活動が品質や環境に与えるリスクを継続的に改善して、製品やサービスの質を高め続ける。
 - (1) お客様Aクレーム“ゼロ”に向けた活動を全部門で実行する。
 - (2) 有機溶剤等の化学物質による環境汚染防止を図り、適正な管理に努めるとともに、地球環境温暖化防止のため、電力・石油の削減と排出物の削減に努める。
 - (3) 利益に直結する“品質や環境にかかわるムダ削減”を全部門で実行する。
 - (4) 品質や環境に配慮した有益な新技術や新製品の開発に努める。
 - (5) 統合マネジメントシステムの運用と業務品質や行動価値の評価を繰り返して、保証するための「しくみ・ルール・手順・基準・育成」を推進する。
 - (6) 整理・整頓・清掃・清潔・躰を磨く活動を全部門で実行する。

事業活動における目標と実績

■2018年度（第49期）

方針		目標	実績
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を順守する	水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの遵守	工場排水や地下水の月次自主監視、廃棄物処理場の現地確認、消防、電気保安、浄化槽他の法定設備点検、各種届出等を行い、法令順守に取り組みました。
	事業活動に適用される有害物質規制を順守する	・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の遵守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応	RoHS指令対象物質でゴムの添加剤に使用されるフタル酸エステル類（DEHP）切替活動や工程内の有機溶剤変更活動を推進しました。
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比2%削減する	製品歩留り改善、投入材料削減を行いました。受注構成変動影響もあり、前年度比0.7%減少となりました。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算使用エネルギーを前年度比2%削減する	太陽光発電他の省エネ投資、既存設備の運用改善を行いました。受注構成変化で前年比-0.3%でした。

■2019年度（第50期）

方針		目標
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を順守する	水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法等の順守
	事業活動に適用される有害物質規制を順守する	・RoHS、ELV、REACH等の規制、指令の順守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算使用エネルギーを前年度比3%削減する。

事業活動における資源・エネルギーの流れ



省エネルギー

■ 電力使用量

2018年度は、福島工場へ設置した自家消費用49.8kWの太陽光発電設備が1年間を通して稼働し、福島工場で使用する電力の約2.3%を発電し、CO₂の削減に寄与しました。また、あらたに白河工場に466.2kW、第二福島工場に129.5kWの自家消費用太陽光発電設備の設置工事を進め、2019年4月から発電を開始します。省エネ活動としては、福島工場の保温ジャケット装着プレスの台数増設、第二福島工場の処理設備に放熱防止の囲い設けるなどの放熱によるエネルギーロスの削減と冷房負荷の低減を行いました。さらに福島工場の冷却水チラーをインバーター設備へ更新、工場の一部の屋根に遮熱塗装を行い、冷房効果を高める改善などを行いました。また、毎月、省エネ推進メンバーミーティングを開催し、各工場の見学やエネルギーの実績、電力測定結果などの勉強会を行い、職場のエネルギー改善活動に生かす土台作りを始めました。

2018年度はこれらの活動を行いました。受注の増加や品質トラブル対応などの影響もあり、使用量は前年比3.0%の増加になりました。



第二福島工場太陽光発電モニター



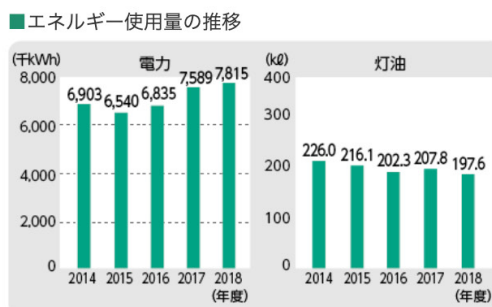
福島工場食堂屋根の遮熱塗装

■ 灯油消費量

2018年度も品質改善活動を継続し、医療用製品の品質不良による再生産の減少に取り組みました。また、燃焼効率の低いボイラーの配管をつなぎ替え、効率の高いボイラーに配管直したことで、灯油の使用量の削減につながりました。また灯油エネルギーを使用する製品の受注が減少したこともあり、前年比4.9%減少しました。



冷却ポンプの省エネ効果を狙う冷水タンク



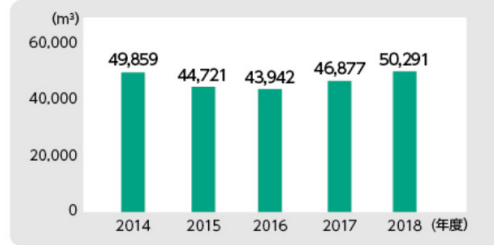
水使用量

水の使用量削減も灯油同様、医療用製品の品質改善活動を継続しました。水使用量の定期チェックによる水道配管の劣化や冬期の凍結による水道管破裂の早期発見と不具合発生時に処置を行う活動を継続し、水のロス防止活動を行いました。今年度は地中の老朽配管からの漏水が見つかり、早期に対応することができました。しかし、今年度は、新たに洗浄が必要な製品や品質改善に伴う洗浄工程の変更があり、水の使用量は前年比7.3%増加しました。



医療用の新製品用設備

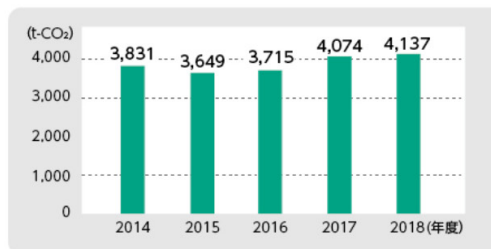
■水使用量の推移



CO₂排出量の低減

2018年度は、白河工場と新たに福島工場に設置した自家消費太陽光発電により、32.4 tのCO₂を削減しました。また、福島工場では蛍光灯のLED照明化、電熱プレスからの放熱を抑制するジャケットの増設、老朽チラーをインバーター化した更新、一部建物の屋根への遮熱塗装などの省電力策を行いました。これらの改善を進めましたが、受注の増加に加え、製品構成の変化や新製品へのエネルギー投入が増加したこともあり、CO₂の排出総量は全体として前年比1.6%増加しました。（原単位ベースでは0.3%減少）

■CO₂排出量の推移



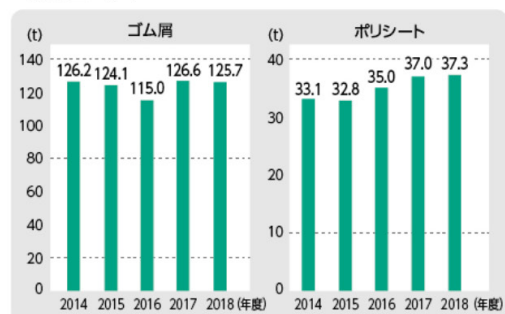
廃棄物の削減

2018年度も品質改善と材料歩留り改善によるゴム系廃棄物削減活動を継続しました。また、製品構成の変化により廃棄物が減少し、廃棄物全体で前期比7.5%の減少となりました。

■廃棄物総排出量と前年度比の推移

年度	廃棄物 (t)	前年度比 (%)
2014	310.9	105.9
2015	290.7	93.8
2016	292.2	100.5
2017	318.8	109.1
2018	295.0	92.5

■排出量の推移

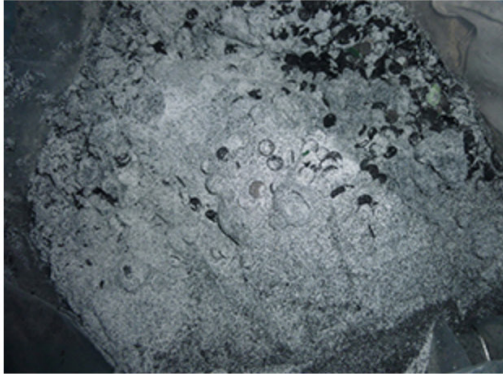


■廃棄物の種類

種類	排出量 (t)
ゴム屑	125.7
シリコーンゴム	29.1
ポリシート、プラスチック	79.2
汚泥	2.8
廃紙類	28.1
可燃物	17.8
木製パレット	10.5
その他	1.8
合計	295.0

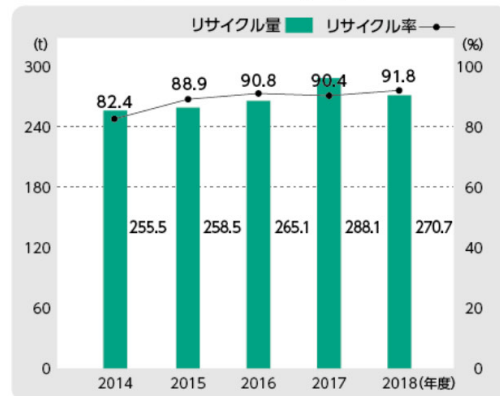
リサイクルの推進

2018年度は、ゴムクズと樹脂粉末の混合物である廃プラストの焼却灰を路盤材へリサイクルする取組みを始めました。これまでのリサイクル品の継続と合わせ、リサイクル率は91.8%となり前年比1.4%向上しました。



バリ取り後の廃プラスト

■リサイクル量およびリサイクル率の推移



化学物質の管理

RoHS6物質が工程内で使用されないように原材料や混練加工済み材料を受入段階で検査するとともに、出荷する製品の確認を行うことで化学物質に対する品質保証を継続しています。

ゴムの添加剤に使用しているフタル酸エステル類（DEHP、BBP、DBP）が対象物質になったことから、これまでPVCとともに進めてきた配合薬品の代替活動が一層重要なものになりました。

工程内で使用しているPRTR法の対象となる化学物質には数種類の有機溶剤があります。

環境や安全に対するルールに従って使用するとともにPRTR法で指定される移動量の届出を行っています。

トリクロロエチレン浄化活動

当社の主力商品だったASA COLOR LAMPCAP中に含まれる不純物を取り除くため、当社では過去にトリクロロエチレンを使用していました。このトリクロロエチレンが地下に浸透していることがわかり、1996年から土壌ガス吸引浄化装置による土壌浄化、2004年から地下水揚水浄化装置による浄化を行ってきました。

2012年からは、微生物分解による土壌浄化の可能性についての調査を開始し、微生物分解による効果が得られるかを薬剤を投入しながら確認してきました。地下30mの酸性土壌という不利な条件のもと、なかなか効果が確認できなかった微生物分解ですが、これまでの確認から少しずつ、反応が進んでいることがわかってきました。2018年度は、これまでの浄化試験の効果をあらためて確認し、2019年度に実施する高濃度の汚染エリアに対しての微生物分解のための薬剤投入計画を作成しました。

2019年度はいよいよ本格的な浄化活動に入ります。微生物分解の効果を確認しながら、少しずつ土壌浄化を進め、汚染エリア解消に向けた取組みを継続していきます。



土壌浄化活動定期モニタリング

化学物質の代替活動

材料の加工に使用する製造設備は、材料の色や種類を変えるごとに清掃を行います。清掃には設備に付着したゴム材料を落とすため有機溶剤を使用しています。有機溶剤は、有害性の高いものがあります。2018年度は有機溶剤の見直しを行い、あらたに有害性の低い種類の溶剤を選定し、変更を行いました。同時に局所排気装置に改造を加え、より安全で衛生的な職場環境を目指し、改善を進めています。

お客様の立場に立った品質を大切にしています

(1)朝日ラバーの品質方針

朝日ラバーの品質方針で大事なことは、「お客様目線の品質」を大切にすることです。得意先クレーム“ゼロ”や法令遵守に取り組むことは当然ながら、お客様のニーズを的確に把握した製品を開発し、資源と時間の無駄を省いた生産活動に取り組んでいます。私たちは常にお客様の視点や立場に立った品質づくりを目指しています。

(2)品質保証と管理システム

国際規格であるISO9001品質とISO14001環境を一本化した、ISO統合マネジメントシステムをベースとして、更なる品質向上を目指し、自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格であるIATF16949の取得準備を開始しました。

品質の基本である“ルールを守る”として、品質会議や設計デザインレビューで横断的な課題や対策の進捗状況などのレビューを実施しています。これらは不良発生の未然防止策として重要なプロセスであり、その力量を高めていきます。今後も着実に管理のサイクルであるPDCAを回して継続的改善に取り組んでいきます。

(3)品質は朝日ラバーの「土台」

土台を構成するのは人材に他なりません。TQM活動の一環で全員参加のQCサークル活動の成果報告会も年2回実施しており改善による品質向上はもとより、人材育成に効果を上げています。問題の発見力と解決能力を磨くべく、さらなる管理技術と、ゴムの能力を最大限に発揮するための固有技術を身に付け、人として常に学ぶ姿勢を持ち、絶えず良質な品質をお客様にご提供し続けていきます。

環境にやさしいものづくり

(1)朝日ラバーの環境方針

私たちは環境問題が人類共通の重要課題であると認識し、「環境にやさしいものづくり」をスローガンとして掲げ、関連法や省エネ法の遵守を行いながら、生産性向上および、生産過程での供給原料の量に対する製品量の比率（歩留り）を高めることで、資源使用量を低減する努力を日々続けています。これからも事業の成長を通じて環境保全と社会への貢献を高めていきます。

(2)環境活動の様子

法規制の遵守、有害物質規制の遵守、廃棄物の削減やエネルギーの削減などを方針に掲げ、環境考慮のものづくりを推進してきました。

再生可能エネルギーである太陽光発電パネルの設置、省エネ設備の導入、照明器具のLED化を進めています。特に、太陽光発電では、白河工場、第二福島工場へ自家消費用の太陽光発電パネルを屋根全面に新たに設置するなど、CO₂の削減効果を高めました。また福島工場へは熱反射塗料による屋根塗り替えを実施し、電熱プレスへは、保温ジャケットの設置を増やし、作業環境改善、プレス放熱ロス削減、冷房負荷低減を行いました。また省エネ、節電を推進し、電力量を各職場で見ることが出来るデマンドコントローラを設置しました。このように環境・省エネ委員会を中心とした草の根活動は、全社の環境意識向上へとつながっております。東日本大震災を経験した福島県にある企業として、これからも環境にやさしいものづくりを目指してまいります。



取締役管理本部長兼品質保証部長
田崎 益次

働きやすい職場づくり

人材マネジメント

朝日ラバーが目指す人材像

1. 私たちは、一人ひとりが自立心を持って目標に挑戦します。
2. 私たちは、個性を尊重しつつ人間性の向上を育み、仕事を通じて自己実現できる環境づくりを目指します。
3. 私たちは、公平に機会を与え、公正かつ具体的に評価し処遇を決めます。

当社の人事基本戦略として、従業員との対話を大切にし、安心・健康でやりがいのある働きやすい職場づくりにつとめます。従業員が公平に評価され、働きがいやモラルの向上につながるよう、資格等級制度、評価制度、給与制度を見直し、目標を必ず達成できる企業体質の構築を目指します。育成では、従業員の保有能力を把握した上でのキャリアアッププランの策定や管理職のスキルアップ制度の導入を進めます。また、自己啓発の促進につとめ、通信教育などは修了を条件に費用はすべて会社負担として自主的な知識の習得を支援しています。

■ 両立支援制度の充実

組織の生産性と活力を高めていくためにも、男女ともに柔軟な働き方と多様なライフスタイルを選択できる諸制度の充実を図っています。特に育児、母性保護、介護に関する制度の見直しに力を入れています。2011年11月には次世代認定マーク「くるみん」を取得し、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業を目指しています。制度の整備にとどまらず、活用を促進するために制度の周知徹底、ニーズ調査の実施、施策検討チームによる検討などに取り組んでいます。



■ 主な両立支援制度一覧

出産・育児	
育児休業	最長、子が1歳6ヶ月に達するまでの期間は育児休業の取得が可能
子の看護休暇	子が小学校就学の始期に達するまでの期間、子1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日間を限度として看護休暇の取得が可能。また、限度日数の範囲内で半日単位の取得も可能
介護	
介護休業	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態ごとに通算98日間の介護休業の取得が可能
介護休暇	要介護状態にある家族1人につき、常時介護を必要とする場合、当該家族が1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日間を限度として介護休暇の取得が可能
柔軟な労働時間	
所定時間外労働免除・制限	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、深夜残業の禁止とともに、所定時間外労働の免除が可能
短時間勤務	子が小学校三年生までの期間、また家族の介護を行う場合、2時間以内の労働時間短縮が可能
ノー残業デー	第2、4水曜日はノー残業デー（間接部門のみ）
半日単位有給休暇付与	1年につき5日分（半日単位での10回分）の半日単位の有給休暇取得が可能

■ 両立支援制度実績(国内事業所および関係会社)

	2016年度	2017年度	2018年度
産休取得者数	8	5	4
育児休業取得者数	11	5	7
育児休業取得者復帰率	100%	100%	100%
育児短時間勤務利用者数	13	12	15
子の看護休暇取得者数・総日数	25(117.5日)	30(150日)	32(152日)
介護関連諸制度利用者数・総日数	9(22.5日)	8(19日)	5(17日)

■ 有給休暇取得者数

	2016年度	2017年度	2018年度
有給休暇 平均取得日数(日)	11.1	11.2	11.0
半日有休 取得者数	230	247	269

■ 新規採用入社3年未満退職率

	2016年度	2017年度	2018年度
新規採用入社3年未満退職率	3.6%	0.0%	0.0%
採用者数	7	3	7
退職者数	1	0	0

職場環境の安全

各工場では、毎月安全衛生委員会を開催し、年間計画に基づく屋内外の設備や作業によるケガ、化学薬品に関する事故、通行時の転倒、防火設備の状態、交通事故他、様々な事故を予防するためのパトロールの実施や職場のヒヤリハット情報への対応、法令への適合状況、全社共通課題への取組みなどを話し合っています。



第二福島工場安全パトロール

それらの結果を全社の安全衛生委員会に持ち寄り、工場相互の活動の摺合せや法令、社会環境などの全社共通事項への取組みに全体が歩調をあわせられるように討議、報告を行っています。

全社委員会の活動としては、工場持ち回りで実施する委員会メンバーによる安全パトロール、緊急時に備える緊急連絡網や消防組織の維持管理、長時間勤務該当者の確認と産業医面談の指示の他、避難・消火訓練の開催、災害発生時のインターネットを使った安否情報連絡訓練などを推進しています。



福島工場消防訓練

こころと身体の健康への取組み

朝日ラバーでは、健康経営を軸とし、従業員が能力を最大限発揮できるように「こころと身体の健康増進」に向けた活動を推進しています。ストレスチェックの実施はもとより、その結果からの集団分析結果を活用した職場環境改善の取組み、産業医や外部の専門機関と連携した従業員のこころの問題に対応する従業員支援プログラム（EAP）の取組み、メンタルヘルスをテーマとした社内研修の開催、管理者層を対象としたカウンセラーとの面談など、メンタルヘルスを向上させる取組みを進めています。

2018年度は、若手従業員を中心メンバーに選定した「働きがい委員会」、「労働改善委員会」を立上げ、やりがいを感じられる職場づくり、働きやすい職場環境づくりの推進を開始しました。このほか、外部講師を招いての健康セミナー、禁煙及び受動喫煙防止活動、健康診断結果に対する保健師の健康指導、社内にインストラクターを招いてのストレッチやヨガ、筋トレの指導、チャレンジウォーキング、スキーツアーなどの健康イベントの開催、壁新聞“ヘルスニュース”による健康意識高揚活動を行っています。また、従業員の福利厚生充実をめざし、工場合同納涼祭や従業員の家族を工場へ招待するファミリーデー、忘年会などの社内行事の他、ベネフィットステーションへの加入、パンの日（社内でのパン販売）の開設など、外部の方々のご協力をいただいている活動を行っています。



平成30年度喫煙対策普及啓発キャンペーン



月例研修でのストレッチ運動



納涼祭



バスツアー集合写真

従業員の状況

■従業員数（2019年3月31日現在）（単位：名）

	正社員	準社員	嘱託	パート	合計
本社	30(5)	0(0)	3(0)	1(1)	34(6)
大阪営業所	7(1)	0(0)	0(0)	0(0)	7(1)
名古屋営業所	3(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)
福島工場	70(23)	1(1)	1(0)	2(2)	74(26)
第二福島工場	67(20)	0(0)	0(0)	1(1)	68(21)
白河工場	103(26)	0(0)	0(0)	8(8)	111(34)
白河第二工場	26(1)	0(0)	0(0)	2(2)	28(3)
(株)朝日ラバー合計	306(76)	1(1)	4(0)	14(14)	325(91)
朝日FR研究所	18(3)	0(0)	1(0)	0(0)	19(3)
ARI INTERNATIONAL Corp.	1(0)	0(0)	0(0)	2(2)	3(2)
東莞朝日精密橡膠制品有限公司	233(151)	0(0)	0(0)	0(0)	233(151)
朝日科技(上海)有限公司	3(1)	0(0)	0(0)	0(0)	3(1)
総合計	561(231)	1(1)	5(0)	16(16)	583(248)

※ () 内は女性人数

■年代別従業員数（2019年3月31日現在）（単位：名）

	男性	女性
20代以下	66	11
30代	70	26
40代	56	25
50代	32	13
60代以上	6	1

■平均年齢・平均勤続年数（2019年3月31日現在）

	本社	大阪営業所	名古屋営業所	福島工場	第二福島工場	白河工場	白河第二工場	(株)朝日ラバー合計
平均年齢(歳)	42.8(41.0)	40.5(45.7)	39.8(-)	42.2(43.2)	36.7(39.3)	36.7(39.2)	33.9(26.4)	38.4(40.4)
平均勤続年数(年)	15.1(12.8)	10.9(5.3)	11.3(-)	16.6(17.5)	12.6(17.3)	12.8(14.3)	9.8(8.0)	13.5(15.9)

※ () 内は女性

社会とのコミュニケーション

JR東北本線泉崎駅の清掃

福島工場、第二福島工場の最寄駅であるJR東北本線泉崎駅で、毎週火曜日に4～5名の当番制で清掃活動を行っています。活動を開始して2019年で24年目になります。



インターンシップの受け入れ

2018年6月に福島大学ワンデイ・インターンシップ工場見学会を開催し、15名が来社されました。

2018年6月に白河実業高校の産業現場実習に6名、10月には学法石川高校からジュニアインターンシップ生1名の実習生を受け入れました。毎年、各学校から産業実習生を受け入れています。

朝日ラバー杯卓球大会と中学生卓球大会を開催

2018年8月に第24回朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催し、福島県南地区17校から217名が参加しました。11月には第17回朝日ラバー杯卓球大会を開催し中学生から一般まで男女合わせて約360名が参加し、両大会とも白熱した試合が繰り広げられました。



「まるごとしらかわ2018」 出展

2018年10月、「まるごとしらかわ2018」の企業フェスティバルに参加しました。イベントでは「しらかわ地域のものづくり企業」のPRと次世代を担う子供たちにもものづくりの楽しさを知っていただくよい機会となりました。当社ブース「シリコン細工体験」は、多くの家族連れで大盛況でした。

